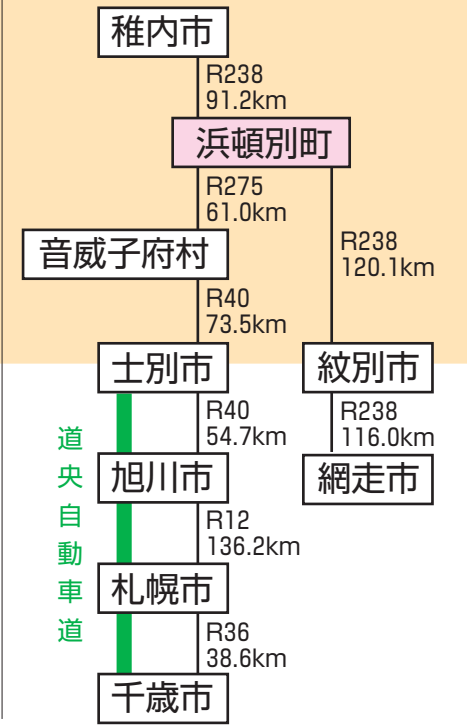


浜頓別町へ ACCESS



浜頓別町 WEB LINK  
 北オホーツク100マラソン  
<http://www.north100.jp/>  
 浜頓別ホームページ  
<http://www.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp/>  
 浜頓別町観光協会  
<http://www.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp/kanko-kyokai/>

わがマチじまん

町民の10人に1人が運営に参加。  
 「北オホーツク100kmマラソン」



第3回 大会概要

■主催 北オホーツク100kmマラソン実行委員会  
 ■共催 浜頓別町  
 ■後援 稚内開発建設部、北海道、猿払村、中頓別町、枝幸町、豊富町、幌延町、稚内市、礼文町、利尻町、利尻富士町、北海道新聞社、株式会社宗谷新聞社  
 ■協賛 大同特殊鋼(株)、(株)アインファーマシース、よつ葉乳業(株)、サッポロビール(株)、(株)アシックス  
 ■企画協力 (株)JTB北海道  
 ■支援 陸上自衛隊名寄駐屯地  
 ■種目 【一般の部】  
 100kmの部(男女)  
 50kmの部(男女)  
 ■コース  
 ・100kmの部  
 午前5時多目的アリーナ前スタート  
 多目的アリーナゴール  
 ・50kmの部  
 午前10時多目的アリーナ前スタート  
 多目的アリーナゴール  
 ■参加資格  
 (1)レース当日満18才以上(高校生は除く)で100kmを14時間00分、50kmを9時間00分以内で完走できる走力を有する男女。  
 (2)車椅子での参加はできません。  
 (3)外国人競技者で(1)を満たす者  
 ■参加定員 【1,000名】  
 (100km/800名 50km/200名)  
 ■参加費  
 100kmの部/15,000円  
 50kmの部/11,000円  
 (マラソン保険、競技中の飲食代、記念品などを含む)  
 ■表彰 8月11日(日)  
 16時00分より多目的アリーナ前で行う。100kmの部・50kmの部  
 男女1位~3位トロフィーと賞品を授与する。各年代別クラス入賞者1位~6位までについては賞品を授与する。  
 ※完走者全員に完走証・メダルを贈る。

第3回  
 北オホーツク100kmマラソン  
 2013年8月11日START!

本州からの参加者からは、親しみを込めて「北オホ」と呼ばれる北オホーツク100kmマラソン。42.195kmを超える道のりを走る、いわゆるウルトラマラソン。2011年の第1回目はエントリー1500名。昨年の第2回目は600名。そして第3回目を迎える今年は、700名のエントリーを目標に、3月25日から出場者の募集を開始。約1ヵ月間で300名を超えるエントリーがあり、順調な滑り出しを切ったと言えるでしょう。

浜頓別町役場の同マラソンの事務局、細川佑壱さんによると「遠くは沖縄、九州からも応募があり、首都圏からもエントリーがかなりあります。道内、道外で言いますと半々ぐらいですね」。

キャッチフレーズは「北海道『オホーツク』に新しい風が吹く」。第1回大会から大会実行委員長を務める丹羽幹典さん(丹羽建設(株)代表取締役社長/浜頓別町大通8丁目)は、ノウハウも何もない中で多くの町民とともに手探りでマラソン大会の実現に取り組んできた浜頓別のイベント仕掛人。

「初回は不安と夢だけしかなかったですね。でも2回目で町民のみならずも相応な自信を持ったと思います」と。聞けばこのマラソンの運営をボランティアとして支えているのは浜頓別町民のみならず、地元の特産物を振る舞うウェルカムパ


お年寄りの方まで老若男女を問わず一つの目標を掲げ、みんなで達成したことになるのです」と、その意義の深さ、大きさを語ります。

「本州であればどんな小さなまちにも歴史があり、文化があります。しかし北海道は函館地方の一部を除けば歴史がまだまだ浅く、文化をこれからつくっていくかなければなりません。そのためには町民のまちに対する意識を高めるとともに、一つの目標、一つの方向に向かって将来像を定めていく必要があるかと思えます。マラソンはもちろん大会そのものの成功もさることながら、まちづくりのためのキッカケづくり、あるいはそういう文化土壌を培っていくことができれば良いと私は考えているのです」。

丹羽さんがこのマラソン大会を始めて最も良かったと感じていることは「まちのみなさんが前向きな気持ちになってくれたことです」と語ります。まちのおばちゃんたちからは「準備は大変だけど楽しみなだね」「長く住んでるけどこの歳になって新しい友達が出来た」「今度〇〇ちゃんをボランティアにさせるよ」「ウェルカムパーティでは浜頓のもてなしはどこにも負けないさだよ」「〇〇県から来るあのファミリー、今年は泊るって」という声が、街角での普通の会話になりました。

6月21日(金)までエントリー受付  
 「まだまだ時間がありますのでエントリーが増えるでしょう。始めたのがちょうど東日本大震災の年でしたから、被災

北オホーツク100kmマラソン 大会実行委員長



丹羽建設株式会社  
 代表取締役社長  
 丹羽 幹典さん

1958年、浜頓別町生まれ。北海道工業大学土木工学科を卒業。1981年、父が同町で経営する丹羽建設に入社。1997年、代表取締役社長に就任。1991~2003年まで3期12年、浜頓別町議会議員を務める。現在、浜頓別建設協会会長。  
 父 源太郎さん(故人)は、元 浜頓別観光協会会長。かつて「浜頓別世界砂金掘り大会」を企画するなど、まちの観光に大きく貢献。親子二代でまちおこしに奔走する。

■創業/大正6年 ■法人設立/昭和29年  
 ■建設業許可/北海道知事(特-20)第778号  
 ■事業所/枝幸郡浜頓別町大通8丁目20番地  
 TEL(01634)2-2134 FAX(01634)2-3285  
 ●札幌支店●稚内支店●函館支店

ーティ。ランナーへの水の給水。バナナの渡し方などの給食。沿道の安全確保と救護体制など、ボランティアスタッフの手はいくらあっても足りないほどでしょう。「私どもの実行委員会は業種、職種を超え、あらゆる団体が入った組織です。そこには仕事の利害関係は一切ありませんし、経済効果は二の次です。第1回目で申しますと、大会をお手伝いいただいた町民のみさんのボランティアの数は430名でした。浜頓別の人口は約4,100人ですから、10人に1人が参加したことになります。こんな小さなまちで10人に1人です。これはスゴいことだと思います。ちっちゃい子どもから学生、



ランナーの表情を見れば、この大会の爽やかさが伝わってきます。(写真提供/浜頓別町)

された東北の大学生の参加者は出場料を免除致しました。東京六大学、あるいは道内では酪農大など、若い世代の浜頓別ファンも確実に増えています」と、新たな交流人口を増やし続けています。

「海があり湖があり山があり川があり畑がある。日本広しと言えどもこんな素敵なロケーションは浜頓別にしかない」ランナー達は必ずそう口にするそうです。